# 次期基礎調査のとりまとめの考え方

- 本マスタープランに基づき実施する次期基礎調査では、「中間評価」と「とりまとめ」を実施する。
- 「中間評価」と「とりまとめ」の考え方(実施時期、目的等)は、それぞれ以下のとおり。

### 中間評価

- ◆ 実施時期:2027年度(5年目)
- ◆ <u>目的</u>:計画期間の中間時期に、過去4年間の調査実施結果の評価、別途並行して実施される「総合解析」の結果や、その時点の政策ニーズ等を踏まえて、必要な調査項目・内容・実施時期の見直しを行う。

### とりまとめ

- ◆ 実施時期:2031-2032年度(9~10年目)
- ◆ 目的:以下の3つの観点から、計画期間の終盤にとりまとめを行う
- ① 調査結果のとりまとめ・解析
  - ▶ 本マスタープランで実施した調査成果のまとめと分析程度にとどめる
  - ▶ 調査結果を活用した解析はJBO(生物多様性及び生態系サービスの総合評価)等での活用を考慮しつつ「10年間の基礎調査の総括」として実施するが、「総合解析」までは踏み込まず、過去の基礎調査との比較等にとどめる
- ② 本マスタープランの総括
  - a. プラン達成状況の評価
    - 本マスタープランで実施した調査の達成状況を評価し、次々期基礎調査の計画で考慮すべき 事項を整理する※中間評価以降に実施した調査が評価対象だが、「とりまとめ」は10年間分を対象として整理する
  - b. 成果活用実態のレビュー
    - 基礎調査の成果が、どれくらい・どのように活用されたかをレビューする
- ③ 次々期基礎調査の計画検討
  - ▶ 本マスタープランの総括結果、その時点の政策ニーズ等を踏まえ、次々期(2033年度以降の10年間)で実施する基礎調査の計画を検討・策定する

# 平成24年度基礎調査(第7回) 総合とりまとめ報告書における評価項目

7/17

はじめに
Summary
I. 業務の目的と概要····································
1.業務の目的
2. 業務の概要
II. 自然環境保全基礎調査とは
1. 自然環境保全基礎調査とは
2. 自然環境保全基礎調査の実施状況
3. 自然環境保全基礎調査の実施の背景
4. 自然環境保全基礎調査の実施予算の推移29
5. 自然環境保全基礎調査の成果及びデータ利用状況31
III. 自然環境保全基礎調査 (第7回) のとりまとめ
1. 自然環境保全基礎調査(第7回)の概要
2. 個別の調査内容と主な成果
<b>2-1</b> . 植生調査
<b>2-2. アライグマ生息情報収集</b> (種の多様性調査) ······59
2-3. 特定哺乳類生息状況調査
2-4.沿岸域変化状況把握調査70
<b>2 - 5. 浅海域生態系調査</b> (干潟)75
2-6. 浅海域生態系調査(藻場)80
<b>2-7. 巨樹巨木林調査</b> 85
2-8. いきものみっけ90
2-9. 積雪情報の収集解析
2-10. 都道府県委託調査(種の多様性調査)
<b>2-11. 自然環境概況調査</b> 113
IV. 検討会の開催······116
<b>1</b> . 検討会開催概要······116
<b>2</b> . 検討会議事概要······117
3. ヒアリング概要125

- 4 自然環境保全基礎調査の実施予算の推移
- 5. 自然環境保全基礎調査の成果及びデータ利用状況
  - ① 生物多様性センターホームページの参照回数
  - ② 自然環境保全基礎調査のデータ利用(複製・提供 等)に関する申請回数
  - ③ GISデータ提供時のアンケート結果
    - 利用者の所属
    - 利用目的別件数
    - 利用した調査項目別件数
  - ④ 植生調査ホームページの利用状況
    - 植生調査ホームページのアクセス解析
    - 植生図GISデータダウンロードの利用状況
  - ⑤ 新聞記事の掲載件数
  - ⑥ 調査研究への利用状況
    - 年度別件数
    - 雑誌別件数
  - ⑦ 自然環境保全基礎調査の活用事例
    - 東北地方太平洋沿岸地域自然環境情報
    - 生物多様性国家戦略2012-2020
    - 日本の動物分布図集
    - 生物多様性総合評価
    - 生物多様性評価の地図化
    - 日本の里山・里海評価(国連大)



## プラン達成状況及び成果活用実態のレビューにおける指標・要素について

- 次期基礎調査の「とりまとめ」において、本マスタープラン(及び、調査項目ごとの実施計画)の達成状況の評価に必要な指標・要素等の考え方について伺いたい
- ・ 直近の基礎調査とりまとめ(平成24年度基礎調査総合とりまとめ(第7回))における課題
  - a. プラン達成状況の評価
    - ▶ 個々の調査で実施されているが、第7回基礎調査全体としてまとめて実施されていない。
  - b. 成果活用実態のレビュー
    - ▶ 一定程度なされているが、成果の活用事例は環境省内に偏りが見られ、他主体による利用(地方自治体、研究者・機関、民間等)は幅広く把握されていない

#### a. プラン達成状況の評価

- ・ 本マスタープランで実施した調査の達成状況を定性 的・定量的に評価し、プランの中間見直し(5年目)や、 次々期基礎調査の計画検討(9・10年目)に反映する
- 評価指標の例
  - ✓ 調査実施率(調査実施範囲/調査計画範囲)
  - ✓ データ整備率 (データ整備範囲/調査計画範囲)
- 評価に必要な要素
  - ✔ 調査体制、調査方法
- 上記指標をもとに調査実施状況やデータ充足状況を評価し、調査実施範囲やデータ整備範囲が計画範囲に満たなかった場合は、上記の要素について要因・課題を分析する

#### b. 成果活用実態のレビュー

- 本マスタープランで実施した調査の成果が、どれくらい・どのように活用されたか定性的・定量的にレビューする(9・10年目)
- レビューの指標の例
  - ▶ データ利用状況(第7回調査総合とりまとめより)
    - ✓ J-IBISの参照回数
    - ✓ 基礎調査のデータ利用に関する申請回数

    - ✔ 調査研究への年度別/雑誌別の利用状況
    - ✔ 新聞記事の掲載件数
- レビューに必要な要素
  - ✓ 国、地方自治体、研究機関、民間等の基礎調査成果の活用事例(優良事例)など